

英語教育特例校事業報告書

平成24年度 宜野湾小学校の取り組み

1 研究主題

豊かな心を育む教育活動の工夫（国際化に向けて人とのかかわりを楽しむ子どもの育成）
～「触れる」「慣れる」「親しむ」英語学習を通して～

2 研究主題設定の理由

平成16年度から本市では、教育特区として英語学習及び異文化理解への興味・関心を高めるための特別なカリキュラムで英語教育を展開しており、英語教育課程特例校としてこれまでの取り組みを継続して実施してきている。さらなる指導内容や実施方法及び評価の工夫等の検討を行っていくことにより、人とのかかわりを楽しむ子どもの育成を目指していく。

3 研究の主な内容

(1) ねらい（宜野湾市 小学校英語教育の目標より）

- 英語教育を通して子どもの興味・関心・意欲の育成を図る。
- 英語教育を通してコミュニケーション能力を育てる。
- 外国人との交流活動を通して国際理解を深める。

(2) 基本的な考え方

①各学年の目標は以下の通りとする。

低学年「英語にふれる」 中学年「英語になれる」 高学年「英語に親しむ」

②時数の取り方については以下の通りとする。

1 学年 音楽(11 時間) 図工(11 時間) 体育(12 時間) 時数計 34 時間

2 学年 音楽(10 時間) 図工(10 時間) 体育(15 時間) 時数計 35 時間

3 学年 総合的な学習の時間(35 時間) 時数計 35 時間

4 学年 総合的な学習の時間(35 時間) 時数計 35 時間

5 学年 外国語活動(35 時間) 総合的な学習の時間(35 時間) 時数計 70 時間

6 学年 外国語活動(35 時間) 総合的な学習の時間(35 時間) 時数計 70 時間

③1 単位時間は 45 分で実施する。

④ALT と JTE と HLT (担任) が役割分担し、どの子も参加する授業づくりをめざして、共通理解し合い英語学習を進める。

⑤活動は、歌やゲーム、チャンツ等を取り入れ、五感を使った身体全体で感じる学習内容（教科や行事と関連づけた）が展開できるようにする。

⑥ALT は視聴覚室にて 1・3・5 学年、JTE はクラブハウスにて 2・4・6 学年の授業を行う。

⑦ 提示資料や掲示物の工夫により、英語学習の環境を整える。

(3) 年間研究計画

- ①校内研修主題「豊かな心を育む教育活動の工夫～聞く力・話す力を高める言語活動を中心に～」の取り組みの一つとして英語学習を位置づける。
 - ・英語学習の進め方について、学習開始前に各学級担任に対して、ALTとJTEによるオリエンテーションの実施（4月）
 - ・英語教室でのルールの確認や掲示の工夫（4月、10月）
 - ・夏期職員研修での教室英語を活用した模擬授業作りフォニックスの実践研修（7月）
 - ・年間2回程度の授業研究を通して、実践力の向上を図る。
- ②学期に複数回の教科部会（各学年英語担当）を開催し、成果や課題を検討する。（6月、9月、12月、2月）
- ③市内英語指導改善研修会へ参加し、成果と課題を共有化しながら、自校の実践に生かしていく。（9月～10月）

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・4月の学習開始前に各学級担任に対して、英語活動の進め方についてオリエンテーションを実施したことで、安心して授業に臨むことができた。
- ・授業の始まりと終わりのあいさつや号令を、日直を中心に子ども達が主体的に進めることができた。
- ・月ごとに学習する単語やセンテンスについて、他の事項についても学びたいという子どもの意欲が高まってきた。
- ・各学年（担任）とALT/HLTのミーティングの時間を設定したことで、各自が授業の見通しを持って学習を進めることができた。
- ・月に数回、授業まとめ時などで英語ノートを活用し、電子黒板と連動させて子どもの興味・関心をひきながら、学年に応じた英語学習環境を作ることができた。
- ・既習事項を使った単語やセンテンスで指示を出すことで、次の活動は何をするか、子どもが考えて行動できるようになった。
- ・シルバー、ブロンズ英検を実施したことで、子どもの英語への興味・関心が出てきて、英語の活動に対して意欲的になった。
- ・ゲームや歌、リズム、チャンツを取り入れることで、子ども同士や教師、ALT/JTEと子ども間のコミュニケーションの場が増えた。
- ・年間を通して、同じALT/JTEと学習することで、授業の流れがわかり、子どもが楽しく積極的に授業に参加することができた。

(2) 課題と対応策

- ・ALT/JTEとHRTとの十分なミーティング時間の確保。
- ・英語教室の不足。
- ・英語に抵抗がある子への支援の検討。
- ・中学校とのつながりを考慮した授業展開や教材、教具の研究。
- ・HRTのさらなる英語力向上へ向けた研修の実施。（クラスルームイングリッシュやグリーティング、簡単な英会話など）
- ・年間計画の見直し。

5 英語活動実践の様子

●低学年

授業（ゲーム）の説明に耳を傾ける



歌とダンスで楽しく英語の学習（TPRで単語を習得）



●高学年

琉球大学留学生との交流で

留学生へのインタビュー。
ジェスチャーを使って、
身振り手振りコミュニケーションをとりました。



様々な国籍の留学生と交流し、
異文化を学びました。



交流を終えて

<成果>

- ・英語圏以外の国籍を持つ外国人と交流することで、多様な文化の存在に気づき、新たに視野を広げるきっかけができた。
- ・児童自らインタビューを行い、英語で表現することの楽しさを感じることができた。
- ・普段、外国人と接する機会の少ない児童にとって、コミュニケーションを図る良い場となった。
- ・授業と違い、会話の活動を多く取り入れたことで、知っている単語やジェスチャーを使い、型にこだわらずにコミュニケーションを取ることが可能だということに気づいた。

<課題>

- ・年間を通して交流する機会が増えれば、外国人や外国の文化をより身近に感じることができ、慣れ親しむことができるので、場の設定の工夫が必要。

6 英語活動実践例

6 学年

Topic : 道案内をしよう & Happy Halloween

Target sentence : "Go straight(まっすぐ), Turn right, Turn left (右、左へ曲がる) "

Activity	JTE	HRT	Remarks
<Greeting> あいさつを する。		児童を並べ、元気良く挨拶しましょう♪ Sit up straight! Let's start English class! Good morning, everyone! How are you?/ How is the weather ?/ What day is it ?	S:O.K! S:Let's start!
<Book> 絵本	Let's read together! Halloween is.....	What is "Halloween"? ハロウィンって何でしょう? 10月31日はハロウィンです。由来について "Halloween is..."という絵本を読みます。 ハロウィンのキャラクターを紹介します。 (Jack-o'-lantern,ghost,mummy,witch, skeleton,monster,black cat)	
<introduction > 導入 <Activity①>	Let's have a Halloween party! Sword fight game	ハロウィンのキャラクターに扮してゲームをしましょう。 方向や動きを指示する表現の練習をしましょう。 Go straight, Turn right, Turn left, Stop, forward, Go back... 4グループに分かれて、各自順番を決めます。 1番目の生徒はお面と布をかぶります。 目隠しをしたら、ぐるぐる回ります。 合図で的に向かい、打ちます。 他のメンバーは方向を指示します。	
<Activity②>	Trick or treat	Trick or treat(トリックオアトリート=お菓子をくれなきゃいたずらするぞ!)	
<Wrap up> まとめをする。 終わりのあいさつをする。	Feed back (今日のまとめ) . That's all for today. Goodbye! See you next time!	Feed back. (今日のふりかえり) Sit up straight! Let's finish English class! Thank you very much, see you next time, good bye! Rock,scissors,paper,1.2.3! See you.	S: O.K! S:Let's finish!

友だちの英語を聞いて、的へ向かいます。
Right, left??



指示が伝わるように、はっきり発音することを心がけて…。



的に当たるまで指示を出します。
"Reft! Reft! Hit!"



授業を終えて

<成果>

- ・ゲームを通して英語に慣れ親しみ、表現する楽しさを感じることができた。
- ・他国の文化を知ることができた。
- ・ゲームを通して単語の復習ができ、楽しみながら英語を発することができた。

<課題>

- ・朝の会や帰りの会など、英語の時間以外でも歌やチャンツなどを取り入れる時間が必要。
- ・他教科との関連づけ。
- ・特別な支援の必要がある児童や理解度に差がある児童の支援について、指導法の工夫が必要。